

趣味でも兼業でもいい。プランターや庭で野菜自給

みんなで有機農業をしよう



←さつまいも畑。
農業経営の中心はさつまいも。

↓一昨年から農業をするようになった長男と



さつまいもの花 →



小学校のふれあい給食

台風能耐えたさつまいもに救われて

「自信をもつて」「うまくいく」といえないが……
どうしたら有機農業で生活できますか。夢を持って有機農業に取り組もうとしている新規就農者から受ける質問である。自信を持って、こうしたらうまくいきますよ、と言えないのが残念である。私自身も昭和52年に有機農業に出会って以来、それとの戦いの連続であった。技術的なこと以上に大変である。一昨年からは長男と一緒に農業するようになって、同じ状況が続いている。正しいことをやっているのだから当然理解してもらえないはずだ。提携で生活できるはずだ、という思いでがんばり続けた時代もあった。団地でチラシを配り、フリーマーケットがあると聞くと野菜とチラシを持って宣伝に行くが、思うように消費者を増やすことができなかった。

私の場合は、たまたま台風に耐えたさつまいもを焼酎やいも飴に加工してもらえたり、料亭で羊羹の原料として紫芋、人参芋などをつかってもらえたりという幸運があつて、少しの提携をしながら、さつまいもを中心にした経営をしている。最近、地域の物産館を通じてではあるが、学校給食にも野菜を使ってもらえるようになった。(写真上)

こんな田舎でも有機農業で生活できますよ、後継者へ引き継ぐことができずよといえるようになりたいと思ってる。

また最近あまり難しく考えずに、兼業の有機農業や趣味の有機農業もあって良いのではないかと思ってる。深刻に考えると、うまくいかなかったとき、有機農業との縁だけでなく、人との縁まで切れてしまうケースも少なくない。

過疎の村に生きるお年寄りのたくましさに敬服

私の住んでいるところは典型的な過疎の農村地帯だ。周囲は一人暮らしの年寄りがいっぱいいる。その大部分はわずかばかりの国民年金（生活保護以下の収入）と家庭菜園で野菜を自給しながら明るく、慎ましく暮らしている。

このたくましさには本当に頭が下がる。子育て世代と違って、お金があまりいらぬこともあるが、国民みんながこういう生き方をしたら食糧自給率もずいぶん上がるだろうと思う。庭のない方はプランターで、庭のある方は庭の一部を菜園に、田舎に住んでいる方は少し土地を借りて日曜百姓をすれば、お金もかからず食糧自給率向上に寄与できると思う。

作物の種類も品種も農業のあり方も多様でよい。みんなで農業をしよう。

久木田敬二プロフィール

1948年、鹿児島市生まれ。大学卒業後、種豚場勤務。74年、養豚をするつもりで鹿児島へ帰り土地を捜す。77年4月、鹿児島県有機農業研究会の設立総会で梁瀬義亮先生の講演を聴き農業に恐怖を感じ、せめて自分が食べるだけは自分で作ろうと思った。79年、現在の土地を見つけ、80年より養豚を始める。養豚しながら少しずつ野菜の栽培を始める。野菜栽培を広げながら、現在に至る。2004年4月より霧島市特産品販売所ふく

ふくふれあい館代表、養豚は昨年止めた。

久木田農園 久木田敬二 <kukita@vov.plala.or.jp>

〒899・45003 鹿児島県霧島市福山町福沢3990・1

☎ & FAX 0995・56・2851